

露地野菜情報交換会（第1回 たまねぎ）結果概要

たまねぎ生産者やJAを対象とした、全国のたまねぎ産地や需要動向に関する情報交換会を開催しました。

日時	令和元(2019)年9月11日(水) 14:00~16:00
場所	栃木県庁北別館403会議室
内容	(1)たまねぎの需要や全国の産地の動向及び栃木県の展開可能性 講師：国分九州株式会社 大久保巖氏 (2)東京中央卸売市場におけるたまねぎ産地や需要動向について 情報提供者：栃木県東京事務所 (3)情報交換会、個別相談会
主催	栃木県農政部生産振興課
参加者	34名

【主な講演内容】

ア 全国の産地の状況

- ▶ 東北・日本海側で栽培が増えてきており、富山県のJAとなみ野が有名。
- ▶ 栽培暦を守り、適度な大きさ(L、2L)に育てれば収量は上がる。
- ▶ 基礎をしっかりと行い、問題を一つずつ潰していくのが良い。

イ 需要の動向

- ▶ 加工用たまねぎの行き先は外食、総菜、調理食品などであり、これらの需要は年々伸びている。
- ▶ 九州等の遠方産地は物流費が課題。加工・業務用たまねぎの価格は、再生産価格+容器代+物流費+手数料で形成されるため、消費地に近い栃木県は圧倒的に有利。
- ▶ 加工・業務用野菜は、市況と切り離して考えることが重要。
- ▶ 輸入たまねぎは、皮を剥いた状態で輸入され、国産より安価だが、人件費、種子代ともに高騰しており、たまねぎの価格も高騰してきている。

《セミナーの様子》

